

進 化



ラグビー部監督
伊 東 真 吾

ラグビー後援会の皆様方には、日頃より物心両面にわたり温かいご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

今年度のラグビー部のスローガンは、「進化」です。昨年度の「前進ラグビー」にハウスという攻撃オプションを進化させ、さらにキックを戦術として敵陣に入り、トライを奪います。また、DFでは、「どんび」という突き刺さるタックルを目指します。

今年度の成績は、東北で負けなしの結果でしたが、内容的には、FWで相手を圧倒することができず、満足できる試合には、なりません。しかし、秋田県招待試合の御所実業高校には、キックを戦術とした試合展開で勝つことができました。

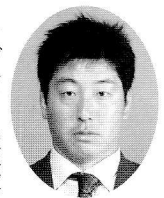
菅平合宿の結果は次の通りです。
 1日目秋工A 10対36 石見智翠館
 2日目秋工A 10対45 佐賀工
 2日目秋工A 0対45 大阪桐蔭
 2日目秋工A 0対29 春日丘
 2日目秋工A 26対26 全広島
 3日目秋工A 33対17 京都成章
 3日目秋工A 33対29 久我山
 4日目秋工A 7対33 天理
 菅平合宿で、二勝五敗一引き分けという結果でした。三日目くらいから、全国のレベルに慣れてきて、ある程度闘えるようになっていきました。毎年のことですが、ワイドラインの早いラグビーに翻弄されて負けることが多

かったのですが、DFのシステムが確立され、全国のレベルに対応できるようになってきました。この菅平で思うことは、全国優勝をするためには、選手達にレベルの高い経験を多く与えてあげることが大切です。かつては、秋田のOBが、毎週のように現役選手と練習をして実力をつけていきました。現在は、東北のレベルも下がりのような環境がありません。花園のベスト四の常連校の東福岡は、サニックスのトップチームから学び、神奈川の桐蔭は、日体大・オーストラリアラグビーを取り入れ、東海大仰星は、東海大学と連携を図り、御所実業は、近畿の近隣チームと毎週試合をして強化をしています。選手と指導陣が常に学ぶ機会が重要です。

今後の予定は、九月に関西遠征、十月下旬に花園予選、一月花園があります。今年の三年生は、主将の児玉を中心にひたむきにプレーできます。この四年間で一番「進化」したのは、気持ちの部分だと確信しております。上手なプレーはありませんが、秋工らしい体を張ったラグビーができます。毎年、花園予選は厳しい戦いになります。秋工ラグビーの魂を前面に出し、スクラムとタックルで勝利をつかみます。

後援会の皆様は勿論のこと、ラグビーファンの皆様、また、秋田県民の皆さんに、元氣や勇氣、感動を与えることのできる試合をします。最後になりますが、今後とも物心両面にわたり、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

花 園 に 向 け て



ラグビー部コーチ
内 藤 慎 平

ラグビー後援会の皆様方におかれましては、日頃より物心両面にわたりラグビー部への温かいご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年度は三年ぶりに花園に出場したものの、初戦敗退という悔しい結果に終わりました。指導する立場として初めての花園でしたが、核となる選手がいながらその力を十分に活かすことができず、自身の力不足を痛感しました。全国のレベルで通用するプレーを身に付けさせていたのか、本番で選手を力発揮させる準備はできていたのか、など多くのことを考えさせられる大会となりました。

今年のチームは昨年のメンバーから大きく入れ替わり、新たなチームとしてスタートを切りました。新人戦から春シーズンまでは県内・東北では勝ち続けましたが、三月の全国選抜大会ではリーグ戦敗退に終わり、また全県総体や東北大会でも内容は決して満足いくものではありませんでした。しかし、七月の秋田県協会招待試合では御所工に対して、思い切ったなプレーを随所に見せ、勝利することができました。ここからチームとして良い流れができ、学校での夏合宿では「限界への挑戦」をテーマに掲げ、体力強化と基本プレーの徹底、精神力強化に日々精力的に取り組みました。そして先日の菅平合宿では全国八強の力を持つチームと連日試合を行ってきましたが、自分

位との差を肌で感じるとともに、自分

たちの課題を見つめ直すことができました。具体的には、ヒットやタックル・ラックでの争奪といった部分ですが、合宿後半からは徐々に改善が見られ、全国に向けても引き続き強化に努めています。

今年のチームの特徴の一つは、三年生の真面目さ・まとまりであると思います。ひたむきにコツコツと努力できる選手が多く、また、それを全員で取り組もうとする雰囲気があります。最上級生が率先して全体練習後に個人の課題練習をしたり、ウエイト場で黙々とバーベルを挙げて体を鍛えており、その姿にチーム全体が引つ張られています。まだまだチームとしては求めている結果は出ていませんが、各個人のプレーを見るとその成果は徐々に出てきていると思います。これからの秋・冬には更に形となって表れてくると思っております。

ここからは負けたら終わりの戦いであり、一つのパス・タックルで勝敗が決まります。今一度、学校生活や私生活を含めた規律面を引き締めることにも、「何のためにこの部に来たのか、なぜ秋田工業ラグビー部を選んだのか」という原点に一人一人が立ち返ることが必要だと思えます。自分の中にある情熱や想いから行動を起こし、強い意志を持って自分の役割・責任をやり切れば、おのずと結果は付いてくると思えます。

最後になりますが、十月の県予選では二年連続で花園への切符を手にし、そして、今年こそは全国の舞台で応援してくださる方々の期待値を超える「強い秋工ラグビー」を見せられるよう、一日一日グラウンドで勝負していきたいと思えます。引き続き、温かいご支援、ご声援を宜しくお願いいたします。